

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	保育者養成課程における「子ども理解」を深める教育的取り組みに関する研究Ⅱ —学生の学びにつながる国内外の保育実践事例の活用—				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部・助教	氏名	崔 美美
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	短期大学部・助教	氏名	崔 美美

講演題目
保育者養成課程における「子ども理解」を深める教育的取り組みⅡ
研究の目的、成果及び今後の展望
1. 研究の目的 近年、幼稚園・保育所・認定こども園（以下、「保育現場」という）は乳幼児にとって重要な社会文化的環境として、家庭とともに乳幼児の成長と発達において重要な役割を果たしている。このような保育現場の重要性から、保育現場および保育者の質に関する議論が盛んになってきているため、その質を保障・向上するための適切な国や自治体、園の取り組みが必要である。そして、保育現場において、保育の質を保障するために保育者に求められる専門性のひとつとして、「子ども理解」が強調されている。また、子どもの生活の実態や発達の理解（子ども理解）が適切であったかどうかなどを重視することが大切であるとされていることから、子ども理解をもとに保育における指導計画や環境構成、子どもへの援助などを考えていくことが重視されている。さらに、幼児期にふさわしい教育を行うために、保育者は子どもと共に生活をしながら、その子どもが今、何に興味を持っているのか、何を実現しようとしているのか、何を感じているのかなどを捉え続けていく必要がある（文部科学省、2018）。 そこで、本研究では、①国内外の保育現場における保育実践について「子ども理解」に着目して検討することで、子ども理解に対する園や保育者の取り組み、保育の実際（子どもや子ども理解の捉え方）を明らかにすることを目的とする。②さらに、これら保育現場での実践事例（収集した写真や動画などのデータ）を保育者養成課程の授業（申請者の担当授業）の中で活用することで、保育者を目指す学生の子ども理解につながる学び（授業実践のあり方）について分析検討を行う。 2. 研究の成果（ここでは、研究の目的②を中心に報告を行う） 本研究では、研究者による現地調査（写真や動画のデータ収集）、学生による参与観察、ゲストスピーカー（保育者）による特別講義（経験話）などを実施した。 ・現地調査：静岡大学教育学部附属幼稚園、千葉大学教育学部附属幼稚園、文京区立お茶の水女子大学こども園 ・参与観察：静岡大学教育学部附属幼稚園（2025年1月14日と1月20日。観察・エピソード記録・共有） ・特別講義：①授業「保育原理」5月10日（金）伊藤幸子先生（文京区立お茶の水女子大学こども園） ②授業「保育内容指導法「人間関係」」12月6日（金）伊藤幸子先生（文京区立お茶の水女子大学こども園） ③授業「幼児理解」12月9日（月）宮里暁美教授（お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所） 3. 今後の展望 保育の実際にふれる経験は、学生にとって「自分の保育観や子ども観を見直す」「子どもや保育への理解を深める」きっかけになったことが示された。そして、経験から得られた学びを仲間と振り返り、共有・省察することで、自分なりの意味と価値を見出すことができたと考える。今後も、保育者養成課程学生の子どもの理解の深まりを支えていく教育的取り組みを継続的に進めていきたい。